

平成 21 年度公立高校入試問題の傾向 数学

●全体的な傾向

今年、授業中の会話形式や何人かの考え方を例示させる問題文が目立った。また、頻出の規則性の問題が様々なパターンで出題されている。基本的な問題構成としては、大問 1 が計算問題や単問で、その後、数と式に関する問題、関数の総合問題、図形の総合問題思考力を問う問題といずれの範囲からも出題されている。難易度も近年と大きな変更はない。

●規則性の問題

アルミ材や画びょうなどの身近な材料を使って作業を規則的に行う問題、数字がかかれたカードや玉を重ねていく問題、ブロックを積み上げていく問題、行と列を考えて数を並べる問題などが出題されている。より複雑で数学的思考力が必要とされる問題が増加している。

●表現力や思考力を問う問題

模擬店の収支を題材として、文章と表から考える問題、タクシーの走行距離と料金の関係の表をよみとる問題、数あてに関する会話文を読んで、説明する問題、モノレールのすれ違う時間や回数を考えたり、乗車料金に関する表をから考える問題などが出題されている。問題文が会話形式や生徒がつくった問題形式で展開され、いずれも文章が長くなっており、文章を読み解く読解力が必要とされる。また、題材は日常生活に身近な物や行事・イベントをとりあげている。また、近年話題の公立中高一貫校の入試問題に似たタイプの問題も多く出題されている。

●その他

牛乳パック・バームクーヘン・ホッチキスの針・トイレトペーパー・回転式のいすなどの日常生活に身近な物を立体図形としてとらえて面積などを求める問題、図形上を動く動点・水そうに水を入れるなどの関数の利用の問題などが出題されている。また、図形の証明問題や数と式の説明する問題でも出題形式を会話文で展開しており、読解力も必要とされる。

増加傾向にある読解力や表現力や思考力を問う問題を解くためには、基礎・基本の学力の定着と反復演習が必要とされる。好学出版では、基礎・基本の学力の定着のため、問題レベルのステップを細かくし、段階的にレベルを上げるよう、また反復演習のため、様々なパターン学習ができるよう、問題選択・配列や解説の書き方に配慮している。